

芦別市立上芦別小学校

1 学習活動の概要

本校では、第5学年の総合的な学習の時間において、地域の日本遺産「炭鉄港」を学習教材として取り上げ、地域の歴史や産業に関わる探究的な学習活動を通して、郷土に対する愛着や誇りをもち、さらに発展させていこうとする児童の育成に取り組みました。

2 学習活動（1単位時間）の様子

（1）導入

前時で学習した「炭鉄港」について振り返り、学習課題「石炭はわたしたちとどのような関係があるのだろうか」を設定しました。

（2）展開

暮らしの移り変わりを捉えさせるために、「明治のはじめ」「昭和のはじめ」「1970年代」の暮らしのイラストを提示し、気付いたことを学級全体で交流しました。全体交流を通して、時代の移り変わりとともに、暮らしが豊かになっていることに気付かせ、空知管内では、芦別市を含めた12か所に炭鉱があり、地域の発展に大きな役割を果たしたことについて理解を深めました。



【全体交流の様子】

（3）終末

「動画 de 炭鉄港『10分でわかる炭鉄港』」を視聴し、地域の歴史や産業について理解し、郷土に対する誇りや愛着を育んだ上で、地域の発展のために自分にできることについて考えました。



【動画視聴の様子】

【児童の感想】

- 炭鉄港は、日本の近代化に貢献した地域の大切な財産だと感じました。この施設をずっと大切にしていきたいと思いました。
- 日本の発展のために努力した地域の人たちの気持ちを受け継いで、自分も将来、まちの役に立つことができるよう、がんばりたいです。

3 Naviポイント

- 地域の歴史や産業に関わる施設や人材に繰り返し関わり、児童生徒の興味・関心を生かした問題解決的な学習活動を展開することが大切です。
- 郷土に対する誇りや愛着を育むとともに、地域の発展のために自分にできることについて考えを深めることができるよう、学んだことをまとめ、その成果を基に新たな課題を考える活動を位置付けることが大切です。